

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	横浜fカレッジ
設置者名	学校法人岩崎学園

「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
服飾・家政 専門課程	ファッションライフデザイン学科	夜・通信	3,735 時間	240 時間	
	ファッションビジネス科	夜・通信	1,305 時間	160 時間	
文化・教養 専門課程	ブライダル科	夜・通信	1,290 時間	160 時間	
	アドバンスドブライダル科	夜・通信	340 時間	80 時間	
	ビューティーコーディネーター科(メイクアップコース)	夜・通信	1,590 時間	160 時間	
	ビューティーコーディネーター科(ネイルコース)	夜・通信	1,590 時間	160 時間	
	ビューティーコーディネーター科(エステティックコース)	夜・通信	1,650 時間	160 時間	
	ジュエリー&アクセサリー科	夜・通信	1,440 時間	160 時間	
衛生 専門課程	ビューティースタイリスト科	夜・通信	1,950 時間	160 時間	
<p>(備考)</p> <p>・ジュエリー&アクセサリー科は令和3年度より募集停止。 ・ファッションライフデザイン学科、ファッションビジネス科、ブライダル科、アドバンスドブライダル科、ビューティーコーディネーター科(メイクアップコース・ネイルコース・エステティックコース)及びビューティースタイリスト科の1年は新課程、左記以外は旧課程。</p>					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

閲覧用シラバスファイルを教職員室に備え付け公表

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	横浜 f カレッジ
設置者名	学校法人岩崎学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

法人本部事務所に備え付け

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	平成30年12月1日 ～ 令和4年11月30日	法人運営に関する 助言と指導
非常勤	大学教授	平成30年12月1日 ～ 令和4年11月30日	当法人教学組織への 助言と指導
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	横浜 f カレッジ
設置者名	学校法人岩崎学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画(学科グランドデザイン)を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目名、授業方法、授業時間数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無(有の場合:実務経験内容) ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準(評価方法:試験評価、出席評価、課題評価) ・年間授業計画(单元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点) オムニバス形式の授業の場合は、单元ごとに講師名を記載する。 	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>科目ごとに、第1回目授業内に担当教員より学生に Web 上の LMS を使用し伝達。 閲覧用シラバスファイルを教職員室に備え付け公表</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に5段階または2段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。</p> <p>(成績評価基準)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5段階評価の場合 <ul style="list-style-type: none"> S:100点法における100~90点に該当 A:100点法における89~80点に該当 B:100点法における79~70点に該当 C:100点法における69~60点に該当 D(不合格):100点法における59~0点に該当 ・2段階評価の場合 <ul style="list-style-type: none"> 認:合格 否:不合格 <p>※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の3分の1を超えるものは不合格となる。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- ・対象科目
卒業算入対象科目。
但し、認定科目については、GPA計算の対象外。
 - ・算出方法
各授業科目の成績評価に、下記の Grade Point を与え、
「授業科目の時間数×Grade Point」の和を総履修時間数で除して算出。
 - ・ Grade Point
 - S : 4.0
 - A : 3.0
 - B : 2.0
 - C : 1.0
 - 不合格 : 0
- *GPAは小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで表示。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

閲覧用シラバスファイルに GPA 指標を添付し教職員室に備え付け公表。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。
卒業にあたっては、必修・選択必修科目の単位（修得授業時間数）がすべて認定されることが条件となる。

学科名	卒業に必要な総授業時間数
ファッションライフデザイン学科	2,550
ファッションビジネス科	1,710
ブライダル科	1,710
アドバンスドブライダル科	810
ビューティーコーディネート科	1,710
ビューティースタylist科	2,040
ジュエリー&アクセサリー科	1,740

卒業の認定に関する
方針の公表方法

閲覧用シラバスファイルに添付し教職員室に備え付け公表。
入学時に学生に配布する「学生生活の手引き」書に、授業時間数・卒業認定基準を記載。また、入学ガイダンスおよび保護者あての郵送物でも、授業時間数および卒業認定基準を公表。卒業認定については、卒業発表日を設け、学生に告知・成績表を配布。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	横浜fカレッジ
設置者名	学校法人岩崎学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2021.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2021.html
財産目録	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2021.html
事業報告書	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2021.html
監事による監査報告（書）	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2021.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政 専門課程	ファッションライフデザイン学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,550時間 (2・3年生は2,910時間) 単位時間/単位	525 (690) 単位時間 /単位	2,160 (3,150) 単位時間 /単位	825 (1,230) 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3,510(5,070)時間 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		91人	0人	5人	17人	22人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（授業方法及び内容）</p> <p>アパレル関連企業との連携授業やインターンシップ、活発なグループワークを通して、ファッションビジネスをトータルに捉える視座を養うとともに、実践力を養成。また、ファッション関連の最新テクノロジーに対応したカリキュラムで、ITスキルも兼ね備えた人財を育成する為の授業を実施。デザイナー、パタンナー、企画、総合職、プレス等、アパレル業界の幅広い職種をめざす。</p> <p>（年間の授業計画）</p> <p>当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画（学科グランドデザイン）を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目名、授業方法、授業時間数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無（有の場合：実務経験内容） ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準（評価方法：試験評価、出席評価、課題評価） ・年間授業計画（単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点） <p>オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。</p>

成績評価の基準・方法

(概要)
 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に5段階または2段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。

(成績評価基準)

- ・5段階評価の場合
 - S：100点法における100～90点に該当
 - A：100点法における89～80点に該当
 - B：100点法における79～70点に該当
 - C：100点法における69～60点に該当
 - D（不合格）：100点法における59～0点に該当
- ・2段階評価の場合
 - 認：合格
 - 否：不合格

※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の3分の1を超えるものは不合格となる。

卒業・進級の認定基準

(概要)
 成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。
 卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位（修得授業時間数）がすべて認定されることが条件となる。

学科名	必要な総授業時間数		
	1年次	2年次	3年次
ファッションライフデザイン学科	870	825	855
ファッションビジネス科	870	840	—
ブライダル科	870	840	—
アドバンスドブライダル科	810	—	—
ビューティーコーディネータ科	870	840	—
ビューティースタylist科	1,020	1,020	—
ジュエリー&アクセサリー科	900	840	—

学修支援等

(概要)
 クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。
 また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の4月～9月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19人 (100.0%)	1人 (5.3%)	10人 (52.6%)	8人 (42.1%)
(主な就職、業界等) (株)マルキン、丸中(株)、(株)金原、(同)ヴァレイ、(株)柳屋、アークインターナショナル(株)、(株)ウィゴー、(株)エス・グルーヴ、ダイアナ(株)			
(就職指導内容) 就職指導部を設置し、教務部と協力した就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業セミナー開催などを実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションビジネス能力検定3級（合格率66.7%） ・色彩技能パーソナルカラー検定 モジュール1（合格率90.0%） ・パターン検定3級（合格率100.0%） 			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
85人	6人	7.1%
(中途退学の主な理由) 病気療養、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政 専門課程	ファッションビジネス科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,710時間 (2年生は1,740)時間 単位時間/単位	480 (495) 単位時間 /単位	1,500 (1,515) 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,980(2,010)時間 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140人		104人	0人	5人	15人	20人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
<p>(授業方法及び内容)</p> <p>アパレル企業、ファッション系出版社等との連携を推進した実習・演習型の教育課程で、ファッション業界を戦略的、分析的に捉える視座を養う。多様化するファッションビジネスの世界で、販売、流通、EC、プロモーション、スタイリスト等の分野で幅広く活躍できる人材を育成する為の授業を実施。</p> <p>(年間の授業計画)</p> <p>当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画(学科グランドデザイン)を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目名、授業方法、授業時間数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無(有の場合:実務経験内容) ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準(評価方法:試験評価、出席評価、課題評価) ・年間授業計画(単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点) <p>オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。</p>	
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に5段階または2段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。</p> <p>(成績評価基準)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5段階評価の場合 <ul style="list-style-type: none"> S:100点法における100~90点に該当 A:100点法における89~80点に該当 B:100点法における79~70点に該当 C:100点法における69~60点に該当 D(不合格):100点法における59~0点に該当 ・2段階評価の場合 <ul style="list-style-type: none"> 認:合格 否:不合格 <p>※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の3分の1を超えるものは不合格となる。</p>	

卒業・進級の認定基準

(概要)

成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。

卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位（修得授業時間数）がすべて認定されることが条件となる。

学科名	必要な総授業時間数		
	1年次	2年次	3年次
ファッションライフデザイン学科	870	825	855
ファッションビジネス科	870	840	—
ブライダル科	870	840	—
アドバンスドブライダル科	810	—	—
ビューティーコーディネータ科	870	840	—
ビューティースタylist科	1,020	1,020	—
ジュエリー&アクセサリ科	900	840	—

学修支援等

(概要)

クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。

また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の4月～9月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
39人 (100.0%)	0人 (0.0%)	28人 (71.8%)	11人 (28.2%)

(主な就職、業界等)

(株)TSI、(株)バイクルーズ、ジュングループ、(株)パル、(株)リーガルリテール、(株)アズノウアズ、(株)アダストリア、(株)ビショップ、(株)キャン、(株)ステップス、(株)アクセ、(株)東京芸夢、(株)コックス、ダイアナ(株)ほかアパレル業界

(就職指導内容)

就職指導部を設置し、教務部と協力した就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業セミナー開催などを実施している。

(主な学修成果（資格・検定等）)

- ・ファッションビジネス能力検定3級（合格率87.5%）
- ・ファッションビジネス能力検定2級（合格率100.0%）
- ・スタイリングマップ ジュニアレベル（合格率100.0%）
- ・色彩技能パーソナルカラー検定 モジュール1（合格率87.5%）
- ・スタイリングマップ プレイヤーレベル（合格率63.0%）
- ・ネットショップ実務士補（合格率100.0%）

(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
93人	11人	11.8%
(中途退学の主な理由) 病気療養、経済事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	ブライダル科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,710時間 (2年生は1,740時間) 単位時間/単位	150 (195) 単位時間 /単位	405 (390) 単位時間 /単位	1,155 (1,155) 単位時間 /単位		
			1,710(1,740)時間 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		198人	0人	6人	14人	20人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(授業方法及び内容) 本学科は、開設以来、一貫して本物の婚礼をプロデュースする実践的な「ブライダルプロジェクト」の授業を核に、教育課程を編成している。業界企業と学生が直接コンタクトを取り、協業するプログラムを通して、職種への理解を促進するとともに、求められるスキル、ホスピタリティマインドを養成し、ブライダル業界で実践的に活躍できる人材を育成する為の授業を実施。	
(年間の授業計画) 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画(学科グランドデザイン)を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。 ・科目名、授業方法、授業時間数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無(有の場合:実務経験内容) ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準(評価方法:試験評価、出席評価、課題評価) ・年間授業計画(単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点) オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。	

成績評価の基準・方法

(概要)
 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に5段階または2段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。

(成績評価基準)

- ・5段階評価の場合
 - S：100点法における100～90点に該当
 - A：100点法における89～80点に該当
 - B：100点法における79～70点に該当
 - C：100点法における69～60点に該当
 - D（不合格）：100点法における59～0点に該当
- ・2段階評価の場合
 - 認：合格
 - 否：不合格

※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の3分の1を超えるものは不合格となる。

卒業・進級の認定基準

(概要)
 成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。
 卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位（修得授業時間数）がすべて認定されることが条件となる。

学科名	必要な総授業時間数		
	1年次	2年次	3年次
ファッションライフデザイン学科	870	825	855
ファッションビジネス科	870	840	—
ブライダル科	870	840	—
アドバンスドブライダル科	810	—	—
ビューティーコーディネーター科	870	840	—
ビューティースタylist科	1,020	1,020	—
ジュエリー&アクセサリー科	900	840	—

学修支援等

(概要)
 クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。
 また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の4月～9月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
57人 (100.0%)	0人 (0.0%)	52人 (91.2%)	5人 (8.8%)

<p>(主な就職、業界等)</p> <p>(株)NOVIC、(株)ベスト - アニバーサリー、(株)千代田、(株)横浜ベイホテル東急、富士屋ホテル(株)、(株)ティア、(株)曾我、ほかホテル・ブライダル業界</p>
<p>(就職指導内容)</p> <p>就職指導部を設置し、教務部と協力した就職指導を実施。 主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同業界説明会開催、各業界企業セミナー等を実施。</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(公社) 実務技能検定協会主催 サービス接客検定1級(合格率55.5%)、準1級(合格率97.3%)、2級(合格率82.1%) ・(公社) 日本ブライダル文化振興協会主催 ブライダルローテイナー検定3級(合格率89.0%) ・(公社) 日本ブライダル文化振興協会主催 アソシエイトブライダルローテイナー認定(合格率98.2%)
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
175人	13人	7.4%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>経済事情、進路変更</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	アドバンスド ブライダル科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	810時間 単位時間／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	810 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			810時間 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		0人	0人	0人	2人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（授業方法及び内容）</p> <p>業界企業と学生が直接コンタクトを取り、協業するプログラムを通して、職種への理解を促進するとともに、求められるスキル、ホスピタリティマインドを養成し、ブライダル業界で実践的に活躍できる人材を育成する為の授業を実施。インターンシップやイベント運営など、現場でのリアルジョブを通し、知識だけでなく現場力アップを図り、即戦力となる人材を育成する。</p> <p>（年間の授業計画）</p> <p>当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画（学科グランドデザイン）を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目名、授業方法、授業時間数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無（有の場合：実務経験内容） ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準（評価方法：試験評価、出席評価、課題評価） ・年間授業計画（単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点） <p>オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に5段階または2段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。</p> <p>（成績評価基準）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5段階評価の場合 <ul style="list-style-type: none"> S：100点法における100～90点に該当 A：100点法における89～80点に該当 B：100点法における79～70点に該当 C：100点法における69～60点に該当 D（不合格）：100点法における59～0点に該当 ・2段階評価の場合 <ul style="list-style-type: none"> 認：合格 否：不合格 <p>※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の3分の1を超えるものは不合格となる。</p>	

卒業・進級の認定基準			
(概要)			
成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。			
卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位（修得授業時間数）がすべて認定されることが条件となる。			
学科名	必要な総授業時間数		
	1年次	2年次	3年次
ファッションライフデザイン学科	870	825	855
ファッションビジネス科	870	840	—
ブライダル科	870	840	—
アドバンスドブライダル科	810	—	—
ビューティーコーディネート科	870	840	—
ビューティースタylist科	1,020	1,020	—
ジュエリー&アクセサリー科	900	840	—
学修支援等			
(概要)			
定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。			
また、より高度な職業人の育成をめざし、学生生活の中に、企業連携授業・インターンシップ、地域活性化イベント等を有機的につなげるプログラムを配している。			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等)			
令和2年度は、在籍生なし			
(就職指導内容)			
就職指導部を設置し、教務部と協力した就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同業界説明会開催、各業界企業セミナー等を実施。			
また、志望企業へのOJTを通し、就職にも繋げていく。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
令和2年度は、在籍生なし			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
教員による個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	ビューティー コーディネーター科 メイクアップコース	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,710 時間 (2年生は 1,710 時間) 単位時間/単位	210 (210) 単位時間 /単位	1,500 (1,500) 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,710(1,710)時間 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		218 人の内数	0 人	6 人の内数	12 人の内数	18 人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
<p>(授業方法及び内容)</p> <p>メイク・ネイル・エステティック企業や関連団体との連携の下、美容に関わる実践的な知識と技術を習得し、ビューティーアドバイザーをはじめとした、美容分野で活躍できる職業人の育成を目的としている。</p> <p>(年間の授業計画)</p> <p>当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画(学科グランドデザイン)を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目名、授業方法、授業時間数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無(有の場合:実務経験内容) ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準(評価方法:試験評価、出席評価、課題評価) ・年間授業計画(単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点) <p>オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に5段階または2段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。</p> <p>(成績評価基準)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5段階評価の場合 <ul style="list-style-type: none"> S:100点法における100~90点に該当 A:100点法における89~80点に該当 B:100点法における79~70点に該当 C:100点法における69~60点に該当 D(不合格):100点法における59~0点に該当 ・2段階評価の場合 <ul style="list-style-type: none"> 認:合格 否:不合格 <p>※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の3分の1を超えるものは不合格となる。</p>	

卒業・進級の認定基準			
<p>(概要)</p> <p>成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。</p> <p>卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位（修得授業時間数）がすべて認定されることが条件となる。</p>			
学科名	必要な総授業時間数		
	1年次	2年次	3年次
ファッションライフデザイン学科	870	825	855
ファッションビジネス科	870	840	—
ブライダル科	870	840	—
アドバンスドブライダル科	810	—	—
ビューティーコーディネート科	870	840	—
ビューティースタylist科	1,020	1,020	—
ジュエリー&アクセサリー科	900	840	—
学修支援等			
<p>(概要)</p> <p>クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。</p> <p>また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の4月～9月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。</p>			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
71人の内数 (100.0%)	0人の内数 (0.0%)	52人の内数 (73.2%)	19人の内数 (26.8%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>ELC ジャパン(株)、(株)イプサ、エフ・ジー・ジェイ(株)、(株)セントラヴィ、(株)森ビルホスピタリティコーポレーション、(株)ソシエ・ワールド、ベレックス(株)、ほか美容（メイクアップ・エステティック・ネイル）業界</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>就職指導部を設置し、教務部と協力した就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業説明会開催などを実施している。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイクアップ技術検定1級（合格率94.3%） ・日本化粧品検定1・2級（1級合格率86.7%、2級合格率62.9%） ・ネイリスト検定1・2級（1級合格率38.5%、2級合格率95.7%） ・JNA ジェル検定上級（合格率38.5%） ・エステティシャンセンター試験（合格率90.5%） ・AEA エステティシャン上級（合格率100.0%） 			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
183 人の内数	12 人の内数	6.6%の内数
(中途退学の主な理由) 病気療養、経済事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	ビューティー コーディネーター科 ネイルコース	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,710 時間 (2年生は 1,710 時間) 単位時間/単位	210 (210) 単位時間 /単位	1,500 (1,500) 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,710(1,710)時間 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生 数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		218 人の内数	0 人	6 人の内数	12 人の内数	18 人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(授業方法及び内容) メイク・ネイル・エステティック企業や関連団体との連携の下、メイク・ネイルエステティック等の基礎知識と技術を基盤にネイリストに求められる商材、衛生面に関する知識と様々なネイル技術を習得、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成する。	
(年間の授業計画) 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画(学科グランドデザイン)を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。 ・科目名、授業方法、授業時間数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無(有の場合:実務経験内容) ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準(評価方法:試験評価、出席評価、課題評価) ・年間授業計画(単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点) オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。	

成績評価の基準・方法

(概要)

学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に5段階または2段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。

(成績評価基準)

・5段階評価の場合

S：100点法における100～90点に該当

A：100点法における89～80点に該当

B：100点法における79～70点に該当

C：100点法における69～60点に該当

D（不合格）：100点法における59～0点に該当

・2段階評価の場合

認：合格

否：不合格

※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の3分の1を超えるものは不合格となる。

卒業・進級の認定基準

(概要)

成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。

卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位（修得授業時間数）がすべて認定されることが条件となる。

学科名	必要な総授業時間数		
	1年次	2年次	3年次
ファッションライフデザイン学科	870	825	855
ファッションビジネス科	870	840	—
ブライダル科	870	840	—
アドバンスドブライダル科	810	—	—
ビューティーコーディネート科	870	840	—
ビューティースタ일리スト科	1,020	1,020	—
ジュエリー&アクセサリー科	900	840	—

学修支援等

(概要)

クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。

また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の4月～9月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
71人の内数 (100.0%)	0人 (0.0%)	52人の内数 (73.2%)	19人の内数 (26.8%)

(主な就職、業界等) ELC ジャパン(株)、(株)イプサ、エフ・ジー・ジェイ(株)、(株)セントラヴィ、 (株)森ビルホスピタリティコーポレーション、(株)ソシエ・ワールド、 ベレックス(株)、ほか美容(メイクアップ・エステティック・ネイル)業界
(就職指導内容) 就職指導部を設置し、教務部と協力した就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業説明会開催などを実施している。
(主な学修成果(資格・検定等)) ・メイクアップ技術検定1級(合格率94.3%) ・日本化粧品検定1・2級(1級合格率86.7%、2級合格率62.9%) ・ネイリスト検定1・2級(1級合格率38.5%、2級合格率95.7%) ・JNA ジェル検定上級(合格率38.5%) ・エステティシャンセンター試験(合格率90.5%) ・AEA エステティシャン上級(合格率100.0%)
(備考)(任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
183 人の内数	12 人の内数	6.6%の内数
(中途退学の主な理由) 病気療養、経済事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	ビューティー コーディネート科 エステティックコース	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼夜	1,710 時間 (2年生は1,710 時間) 単位時間/単位	420 (180) 単位時間 /単位	1,290 (1,530) 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
	昼		1,710(1,710)時間 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		218 人の内数	0 人	6 人の内数	12 人の内数	18 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
<p>（授業方法及び内容）</p> <p>メイク・ネイル・エステティック企業や関連団体との連携の下、就職活動時やサロンで評価されるエステティック資格の取得を主軸に美容に関わる実践的な知識を習得し、エステティックをはじめとした美容分野で活躍できる職業人の育成を目的としている。</p> <p>（年間の授業計画）</p> <p>当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画（学科グランドデザイン）を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目名、授業方法、授業時間数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無（有の場合：実務経験内容） ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準（評価方法：試験評価、出席評価、課題評価） ・年間授業計画（单元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点） <p>オムニバス形式の授業の場合は、单元ごとに講師名を記載する。</p>			
成績評価の基準・方法			
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に5段階または2段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。</p> <p>（成績評価基準）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5段階評価の場合 <ul style="list-style-type: none"> S：100点法における100～90点に該当 A：100点法における89～80点に該当 B：100点法における79～70点に該当 C：100点法における69～60点に該当 D（不合格）：100点法における59～0点に該当 ・2段階評価の場合 <ul style="list-style-type: none"> 認：合格 否：不合格 <p>※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の3分の1を超えるものは不合格となる。</p>			
卒業・進級の認定基準			
<p>（概要）</p> <p>成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。</p> <p>卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位（修得授業時間数）がすべて認定されることが条件となる。</p>			
		必要な総授業時間数	
学科名	1年次	2年次	3年次
ファッションライフデザイン学科	870	825	855
ファッションビジネス科	870	840	—
ブライダル科	870	840	—
アドバンスドブライダル科	810	—	—

ビューティーコーディネーター科	870	840	—
ビューティースタylist科	1,020	1,020	—
ジュエリー&アクセサリー科	900	840	—

学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。 また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の4月～9月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
71 人の内数 (100.0%)	0 人 (0.0%)	52 人の内数 (73.2%)	19 人の内数 (26.8%)
(主な就職、業界等) ELC ジャパン(株)、(株)イプサ、エフ・ジー・ジェイ(株)、(株)セントラヴィ、(株)森ビルホスピタリティコーポレーション、(株)ソシエ・ワールド、ベレックス(株)、ほか美容（メイクアップ・エステティック・ネイル）業界			
(就職指導内容) 就職指導部を設置し、教務部と協力した就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業説明会開催などを実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・メイクアップ技術検定1級（合格率94.3%） ・日本化粧品検定1・2級（1級合格率86.7%、2級合格率62.9%） ・ネイリスト検定1・2級（1級合格率38.5%、2級合格率95.7%） ・JNA ジェル検定上級（合格率38.5%） ・エステティシャンセンター試験（合格率90.5%） ・AEA エステティシャン上級（合格率100.0%）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
183 人の内数	12 人の内数	6.6%の内数
(中途退学の主な理由) 病気療養、経済事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	ビューティー スタイリスト科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,040時間 (2年生は2,040時間) 単位時間/単位	660 (630) 単位時間 /単位	30 (60) 単位時間 /単位	1,350 (1,350) 単位時間 /単位		
			2,040(2,040)時間 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320人		257人	0人	12人	12人	24人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
<p>(授業方法及び内容)</p> <p>厚生労働省認可の美容師養成施設として、美容師をはじめ幅広く美容業界で職業人として活躍できる人材の育成を目指す。特に、美容関連企業や団体、近隣サロンとの連携を行うことで、職業実践的な知識と高い技術力、就労意識を養う為の授業を実施。</p> <p>(年間の授業計画)</p> <p>当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画(学科グランドデザイン)を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目名、授業方法、授業時間数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無(有の場合:実務経験内容) ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準(評価方法:試験評価、出席評価、課題評価) ・年間授業計画(単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点) <p>オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に5段階または2段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。</p> <p>(成績評価基準)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5段階評価の場合 <ul style="list-style-type: none"> S:100点法における100~90点に該当 A:100点法における89~80点に該当 B:100点法における79~70点に該当 C:100点法における69~60点に該当 D(不合格):100点法における59~0点に該当 ・2段階評価の場合 <ul style="list-style-type: none"> 認:合格 否:不合格 <p>※なお、美容師養成施設の教科課程の基準の運用に則り、欠席が出席すべき教科科目の3分の1(実習を伴う教科科目にあつては5分の1)を超えるものは不合格となる。</p>	

卒業・進級の認定基準			
<p>(概要)</p> <p>成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。</p> <p>卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位（修得授業時間数）がすべて認定されることが条件となる。</p>			
学科名	必要な総授業時間数		
	1年次	2年次	3年次
ファッションライフデザイン学科	870	825	855
ファッションビジネス科	870	840	—
ブライダル科	870	840	—
アドバンスドブライダル科	810	—	—
ビューティーコーディネート科	870	840	—
ビューティースタylist科	1,020	1,020	—
ジュエリー&アクセサリー科	900	840	—
学修支援等			
<p>(概要)</p> <p>クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。</p> <p>また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の4月～9月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。</p>			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
107人 (100.0%)	0人 (0.0%)	100人 (93.5%)	7人 (6.5%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>(株)アッシュ、(株)ケンジ、(株)アイ・ビー・シー、(株)Neolive、(株)田谷、(株)THEATER、The C by afloat、(株)ユニックス、ル・ジャルダングループ ほか 美容（ヘアサロン・まつ毛エクステンションサロン、ブライダルヘアメイク）業界</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>就職指導部を設置し、教務部と協力した就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業セミナー開催などを実施している。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美容師国家試験（合格率79.4%） ・パーソナルカラー検定 モジュール1（合格率68.6%） ・色彩検定3級（合格率80.0%） ・色彩検定2級（合格率100.0%） ・JNA ネリスト技能検定3級（合格率81.6%） ・JNA ジェルネイル技能検定試験 初級（合格率92.5%） ・認定フェイシャルエステティシャン（合格率63.4%） ・ABE まつ毛エクステンション技術者認定試験（合格率100.0%） ・日本化粧品検定3級（合格率99.1%） ・ユニバーサルマナー検定3級（合格率100.0%） ・ヘアケアマイスター プライマリーコース（合格率79.1%） 			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
220 人	13 人	5.9%
(中途退学の主な理由) 病気療養、経済事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養		文化・教養 専門課程	ジュエリー&アクセサリ科	○	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2 年	昼	1,740 時間 単位時間/単位	330 単位時間 /単位	600 単位時間 /単位	810 単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,740 時間 単位時間/単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人	9 人	0 人	1 人	9 人	10 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(授業方法及び内容) ジュエリー、アクセサリーの企画、製作から販売まで、業界の一連の流れをビジネスとしてトータルに学べる教育課程を編成し、職業人を育成。関連企業や、現役のジュエリーデザイナー、プランナーと連携することで、多様化するジュエリーアクセサリ業界で、新しい視点でのアプローチが出来る実践力を持った人材を養成する為の授業を実施。
(年間の授業計画) 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画(学科グランドデザイン)を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。 ・科目名、授業方法、授業時間数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無(有の場合:実務経験内容) ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準(評価方法:試験評価、出席評価、課題評価) ・年間授業計画(単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点) オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。

成績評価の基準・方法

(概要)
 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に5段階または2段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。

(成績評価基準)

- ・5段階評価の場合
 - S：100点法における100～90点に該当
 - A：100点法における89～80点に該当
 - B：100点法における79～70点に該当
 - C：100点法における69～60点に該当
 - D（不合格）：100点法における59～0点に該当
- ・2段階評価の場合
 - 認：合格
 - 否：不合格

※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の3分の1を超えるものは不合格となる。

卒業・進級の認定基準

(概要)
 成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。
 卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位（修得授業時間数）がすべて認定されることが条件となる。

学科名	必要な総授業時間数		
	1年次	2年次	3年次
ファッションライフデザイン学科	870	825	855
ファッションビジネス科	870	840	—
ブライダル科	870	840	—
アドバンスドブライダル科	930	—	—
ビューティーコーディネーター科	870	840	—
ビューティースタylist科	1,020	1,020	—
ジュエリー&アクセサリー科	900	840	—

学修支援等

(概要)
 クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。
 また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の4月～9月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100.0%)	0人 (0.0%)	4人 (66.7%)	2人 (33.3%)

(主な就職、業界等) (株)CHARMY、(株) 東海産業、(株)リコルド、(株)Local Brand
(就職指導内容) 教務部と協力体制の就職指導部を設置。主な指導内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同企業説明会及び各業界企業セミナーなど実施している。
(主な学修成果(資格・検定等)) <ul style="list-style-type: none"> ・AFT 色彩検定 3級 (合格率 50%) ・ジュエリーコーディネーター検定 3級 (合格率 80%) ・リテールマーケティング(販売士)検定 3級 (合格率 77.7%)
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	3人	16.7%
(中途退学の主な理由) 経済事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
ファッションライブデザイン学科	100,000 円	467,000 円	445,000 円	その他： 維持費、実習費、 施設費、 学生諸費
ファッションビジネス科	100,000 円	467,000 円	445,000 円	
ブライダル科	100,000 円	467,000 円	445,000 円	
アドバンスドブライダル科	100,000 円	350,000 円	250,000 円	
ビューティーコーディネート科	100,000 円	467,000 円	445,000 円	
ビューティースタylist科	100,000 円	467,000 円	445,000 円	
シェアー&アクセサリー科	100,000 円	467,000 円	445,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
岩崎学園奨学生制度、岩崎学園震災特別対応基金制度、特待生制度、等				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL : https://yfc.iwasaki.ac.jp/total/admissions/disclosure.html		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校目的を達成するための目標設定や具体的計画について、達成状況や取り組みの適切さを自己評価として行い、その結果について、本校に定める学校評議委員会が評価を行う。その目的は、学校評価の精度を上げ、客観性を高めるためのものであり、企業、地域代表、卒業生の意見を積極的に汲み取り反映させる。そのため、学校関係者評価委員会を組織し、学校の活動内容を各委員に周知するとともに、意見交換を行う機会を設ける。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社高島屋	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	業界・地域委員
株式会社ブライト	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
合同会社アタシ社	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	卒業生、企業等委員
神奈川県教育委員会総務室	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	教育関連委員 (元高等学校校長)
株式会社アルテ サロン ホールディングス	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
一般社団法人ファッション産業人材育成機構	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	業界団体委員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL : https://yfc.iwasaki.ac.jp/total/admissions/disclosure.html		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://yfc.iwasaki.ac.jp/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	横浜 f カレッジ
設置者名	学校法人岩崎学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		72人	67人	72人
内 訳	第Ⅰ区分	50人	45人	
	第Ⅱ区分	14人	12人	
	第Ⅲ区分	－人	－人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				72人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	—人	0人	—人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	—人	0人	—人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。